

2025 年度入試
賢明学院中学校
A I 日程

2025. 1. 18 実施

国 語
(45 分)

- ・ 答えはすべて解答用紙に記入すること。
- ・ 字数制限があるすべての設問において、句読点は字数にふくめます。

受 験 番 号

【一】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

哲学と科学とは、もともと一つのものでした。
哲学も科学も、人間の^①好奇心をみたすために、発展させられてきたともいえるヨーロッパ派の学問です。それが、^②イッパンの的に、哲学とも、科学とも、よばれてきたのです。

では、どういうところで、哲学と科学とが^③クベツされるようになってきたのでしょうか。

これについてはいろいろな考え方がありますが、この本では、いちおう、つぎのように説明するところから、話をすすめていきたいと思っています。

好奇心をみたすために、人間は、根ほり葉ほり、いろいろなことをたずねます。しかし、その質問は、つづけようによっては、きりがなくなってしまういます。

A、「空はなぜ青くて赤くないのか」という疑問を持った人が、科学者のところに質問にいったとします。

科学者は、シンセツにいろいろと説明してくれるでしょう。そうしてそのためには、物理学の理論を持ち出してくるようになります。

しかし、「それでは、なぜ物理学の理論をひきあいに出して説明すれば、正しい説明になるのか」という疑問をつづけて出すとしたらどうでしょうか。

そのとき、なお説明をつづけてくれる科学者もいるでしょうが、人によっては、「それは哲学の問題です。科学者の答えることではありません」という人もいることだと思います。

じつさい、科学者にこういう質問をして、こういう答えをもらい、それではということで哲学を勉強するようになった人がいるのです。つまり、科学は、好奇心をみたしてくれませんが、それには^④かぎりがあるのです。

I はどんな質問をしても答えを出してくれるというものではなく、「そこからさきはきかれても困るんだ」というところが、II にはかならずあるのです。

そうして、それでもそのさきがききたいという人には、III が待っているというわけです。

たとえば、好奇心の強い人が、科学という車にのって、いろいろな疑問についての答えをさがして行くと、ここからさきは科学的にはきいてもむだだ、という^⑤赤信号がたっているところにぶつかるところがあるのです。

では、IV という車にのりかえれば、そこで信号機は青を出してくれるでしょうか。

かならずしも、そうとばかりはいいきれません。哲学に科学で答えられないことが答えられるとしたら、はじめから、科学などはやらないうで哲学をやればよさそうなものです。

たとえば、^{※1}ガリレオや^{※2}ニュートンの時代になるまえに、自然のことについてしらべていた学者、そうして、いまでは科学者のなかまには数えられない学者の中には、科学が答えられないような疑問にも、ほとんど答えを出していた人がいました。しかし、そういう答えは空想的なものだとして、いまでは信用されなくなっています。

B 赤信号の前で科学がとまるのには、それだけの意味があるのです。

科学の^⑥成功の秘密は、なにもかも答えようとはしないで、赤信号のたっているところがあることに気がついた点にあるとさえいえるぐらいです。

だから、おやみに赤信号の前にとびだそうとしても、話が空まわりになってしまいうことが多いいのです。

⑤ 科学が、哲学からわかれるまえのほら^⑦ふき学者のやり方に、もういっぺんかえろうとしても、あまり意味はないことになりそうです。
C、なぜ、赤信号がたっているのかしら、という疑問を持つことはできるでしょう。

また、科学に答えられない問いというものは、どんなことをしても答えられないものなのか、それとも、科学が、それより以前の学問のりこえて発展してきたように、科学をのりこえるもつとさきの学問があるのだろうか、という疑問もわいてくるでしょう。

つまり、ここで、人は、一つの答えにくい問いにぶつかったことをきっかけにして、「人間がものを知るとはどういうことか。その、知るということには、そこから先にはどうしても行けない、きりというものがあるのか」という問いにぶつかるのです。

哲学というのは、こういった問いに答えようとするところからはじまる学問だともいえるのです。

つまり、ものごとを知ろうという点では科学とおなじことですが、その知ろうとすることが、科学とは少しちがう。いまの例でいえば、知ることとか、好奇心とかいったこと自体を問題にするのが哲学です。

さきほどの例でいうと、赤信号を青信号にする^{※3}妙薬が哲学なのではありません。

むしろ、赤信号になったことをあらためて問題にして、いろいろ考えてみようというのが哲学です。その結果、思いがけないところから、まえにすすむ道が見つかるかも知れないし、やっぱり人間にはまえにすすむことができないんだ、ということがわかるかも知れない。いわば、哲学は、まえにすすむか、とまるか、だけを考えるのではなく、おちついてまわりのことにも注意しろという、黄信号を出すものだともいえるのです。

そこで、学問の場合にかぎらず、いままで一つのことにムチュウになっていた人が、なにかのきっかけで、おちついてまわりのことも考えるようになると、「あの人も^⑧哲学的になった」ということがあるぐらいです。

※1 ガリレオ……イタリアの物理学者。地動説を支持したため宗教裁判にかけられた。

※2 ニュートン……万有引力を発見したイギリスの物理学者。

※3 妙薬……不思議によく効く薬。転じて、非常に有効な解決策。

問一——線部 a d のカタカナを漢字に直して答えなさい。

問二——A C に当てはまる適当な言葉を次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。(同じ記号を二度は使えないものとする。)

ア しかし イ あるいは ウ たとえば エ つまり オ おしろ

問三——線部①「好奇心」とは、どういう心のことですか。本文の内容を踏まえて、最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 新しいものに興味を持ち、知りたいと思う心

イ 目標実現のために惜しまず努力したいと思う心

ウ 物事の意義や本質を深く学びたいと思う心

エ 粘り強く困難なことへ挑戦したいと思う心

問四——線部②「かぎり」に用いられる漢字はどれですか。次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ゲン代 イ ゲン因 ウ ゲン重 エ ゲン度

問五——本文における「哲学」の説明として適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 科学では証明できない疑問を解決する学問

イ 一つの問いについて深く考え、追究する学問

ウ 疑問や好奇心を持つこと自体について考える学問

エ 答えは必ずしも一つに決まっていらないとする学問

問六——I IV には「科学」か「哲学」のいずれかの言葉が入ります。I IV に当てはまる言葉を答えなさい。

問七——線部③「赤信号がたっているところにぶつかる」とは、どういうことですか。二十字以内で答えなさい。

問八——線部④「成功」の対義語を漢字二字で答えなさい。

問九——線部⑤「科学が、哲学からわかるまえのほらふき学者のやり方」とありますが、「ほらふき」の意味として最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア でたらめを周囲の人に話すこと イ ものごとを楽しげに話すこと

ウ うわさを多くの人に話すこと エ 実際より悪いように話すこと

問十——線部⑥「哲学的になった」とは、どういうことですか。本文の言葉を用いて二十五字以内で答えなさい。

問十一——本文における「哲学」と「科学」の共通する部分と違いについて、次の文の X Y に当てはまる言葉をそれぞれ本文中からぬき出して答えなさい。

哲学と科学は、X(八字)という点では共通しているが、Y(十字)が違う。

問十二——本文の内容に最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 人々は昔から現代に至るまで、科学で解決することのできないような問題を哲学の力で解決してきた。

イ 知ろうとすることや好奇心自体に目を向けることで、予想外の答えが見つかり、道が開ける可能性がある。

ウ 答えられない問いにぶつかった場合は、答えが見つかるまで思考し続けることが最も大切である。

エ 人々がものごとを知ろうとすることにはかぎりがあり、解決できない問題について考え続ける必要はない。

【二】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

明治三十一年、帆船・龍睡丸は、太平洋上で大嵐のため難破してしまいましたが、船員十六人は何とかボートで脱出し、珊瑚礁の小さな無人島に漂着しました。

「よろしい。みんなも、今きいているとおり、この砂山に立つと、六カイリの水平線が見えるのだ。船のマストや帆は高いから、もっと遠い、水平線の向こうにあるのも見えるのだ。じゅうぶんに注意して、見はつてくれ。夜は、船の灯火を見はるのだ。しっかりとのおぞ」
私がいとおったとたんに、

「船長。見はりは、今晚からはじまると思いますが、最初の見はり番は、この老人が立ちます。おい、みんな、初の見はりはおいらだよ」と、小笠原が、万年灯の光に、ぼんやりとてらされている一座のまんなかから、いきおいよく名のりあげて、立ちあがった。

「いや、ぼくが立ちます」

「ばくです」

二人の練習生がいうと、わかい連中も、だまっていけない。

「老人は、つかれているからむりだ。わしが立つ」

「夜は、目のいいわかい者の方がいい。見はりは、水夫が引き受けた」

十六人のなかで、いちばんせいが高くて、声の大きい。名物男、姓は川口、名は雷蔵らいそうという会員が、「せいの高い私が、いちばんいい。いちばん遠くが見えるりくつだ。これでよかった。私が見はり番だ」その名のとおり、^②雷声でどなった。

すると小笠原は、しずかに、

「年よりのいうことをきくものだ。^③今夜は、おいらが いいのだ。そのわけは、船長が知ってござる。とうぶんは、おいらが夜の見はり番だ。わかい者は、昼間、力仕事がある。夜はよく眠ることだ」

みんなを、さとすようにいうのであった。

小笠原のいうとおりだ。夜の見はりは、よほど考えなければならぬ。たった一人で、あてもない暗い夜の海を見はっているのだ。ついで、いろいろのことを考えだして、気がよくなってしまう心配がある。とうぶんのあいだは、老巧ろうこうな小笠原と、水夫長と、たびたび難船している、漁夫の小川と杉田がいい。この四人を、夜の当番にきめよう。私は、Iをきめた。

「夜の見はり番は、年のじゆんにきめる。今夜は、小笠原と水夫長に、^④コウタイで立つてもらうことにする。それでは小笠原、このめがねを」

と、私は、天幕の柱にかけてあった、^⑤双眼鏡を取って手わたした。双眼鏡を受け取って、首にかけた小笠原は、大まんぞくのように、にこにこして、天幕を出かけたが、みんなの方をふり向いて、

「みんな、安心しておやすみ」

といって、右手をあげてあいさつして、砂山の方へ、出かけていった。そのすがたは、^⑥まるで、昔のギリシャの彫刻の、海の神のよう

に、^⑦どうしようと、たくましいものであった。

「今夜は、つかれているから、みんなもう、おやすみ」

私の一言に、全員は立ちあがった。

炊事すいじのあとしまつも、天幕のせいとんもすんで、一同は横になると、一日の労働のつかれて、なにを考えるまもなく、すぐ、ぐっすり眠ってしまうのであった。

^⑧私は、倉庫の天幕から、一枚の帆布と、一本の細い索つなを持ってきた。そして、運転士と漁業長とをつれて、天幕のまわりと、伝馬船を見まわってから、砂山にのぼった。

細い金のかまのような月がでて、海もなごさも、ものかなしげに光っている。小笠原は、もじやもじやひげを風にふかせながら、のしのと、しっかりした足どりで、砂山の上を、あっちこち歩いて見はりをしていた。かわいそうに、かれはまだ、おなかのぐあいがよくないのだ。私は、

「小笠原、今夜はありがとう。よくいつてくれた。よく見はりに立ってくれた。わかい者たちのために思ってくれたことは、私には、よくわかつている。これからも、たのおよ」

こういつて、かれの肩かたをたたいた。

「^⑨ケイケンのある者だけに、わかることです。船長に、そんなにいつていただいて、うれしいです」

かれは右手をあげて、空を指さしつつ、

「あの細い月がわかい者にはどくです。あの月を見ているうちに、急に心細くなって、懐郷病（国のことを思つて、たまらなくなる病氣）にとりつかれますから」

「そのとおりだ。それよりも、おまえには、夜の風がどくだ。まだ腹もよくないようだね。夜の見はり当番ちゅうだけ、これを腹にまいておくといい」

私は、帆布と細い索を、さし出した。

「この老人を、それほどまでに……ありがたいことです」

かれの目には、細い月の光をうけて、星のように、ちらつとIIが光った。

（須川邦彦 『無人島に生きる十六人』より）

問一——線部 a d のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直して答えなさい。

問二——線部 ①「わかい連中も、だまつていない」とありますが、その行動は、どのような感情からですか。次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 目立ちたがり屋の老人に対する警戒

イ 自分の方が役に立てるといふ負けん気

ウ 周囲からの無言のプレッシャーに対するいら立ち

エ 少しでも早く国へ帰りたいという望郷の思い

問三——線部 ②「雷声」とはどのような声のことですか。次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 聞き取りにくいはっきりしない声

イ つめたい不愛想な声

ウ 興奮しふるえた声

エ あたりに響きわたる大きな声

問四——線部③「今夜は、おいらが いいのだ」とありますがその理由として最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 若い者は、昼間に体力仕事を多く担うため、夜はしっかり眠って休息をとる必要があるから。
イ ベテランの船員でないと、遠い水平線あたりにいる救助船を見落としてしまう可能性があるから。
ウ 若い水夫が、一人で静かな海を見はっていると、不意にさびしくなつて心が折れてしまうから。
エ 老巧な水夫を、役に立たない「老人」と見下した態度をとることはまちがっているから。

問五——I に身体の一部を表す漢字を入れなさい。

問六——線部④「まるで、昔のギリシャの彫刻の、海の神のように」に見られる表現技法を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 擬人法 イ 倒置法 ウ 直喩 エ 隠喩

問七——線部⑤「私は、倉庫の天幕から、一枚の帆布と、一本の細い索を持ってきた」とありますが、「私」は何のためにそれらを持ち出したのですか。五十字程度で答えなさい。

問八——本文中に登場する「小笠原」「私」の人物像の説明として最も適当なものを次からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 困難な状況でも、とにかく自分だけでも生き残ろうと尽力する人物
イ 几帳面で、運転士として冷静沈着に物事を考えようと努める人物
ウ 最年長者ではあるが船長を尊敬しており、彼の意見には必ず賛成する人物
エ 人の上に立つ船長として場の規律を守る一方で、心優しく皆から慕われている人物
オ どんな時も陽気でユーモアがあり、いつでも食いしん坊なムードメーカー的人物
カ 皆の前では愉快に男らしく振る舞うベテラン船員として頼りになる人物
キ 悲観的な気持ちを胸に秘め、一人だけで過ごす時間を欲している人物
ク 先導者として船員たちに厳しさをもって接するため、皆から疎まれてる人物

問九——II に入る適切な語を次から選び、記号で答えなさい。

ア つゆ イ すな ウ うみ エ めがね

【三】次の各問いに答えなさい。

問一——線部のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直して答えなさい。

- | | |
|-------------------|-----------------|
| ① キケンな任務をこなす。 | ② ついにケツイを固めた。 |
| ③ 善悪のハンダンを誤るな。 | ④ ゲンシ的な農法で育てる。 |
| ⑤ 活発にボウエキして栄える。 | ⑥ のぼせて鼻血が出てしまう。 |
| ⑦ 多くの生徒を引率する。 | ⑧ 金は貴重な金属である。 |
| ⑨ 地元の有力者に相談する。 | ⑩ 激しい頭痛におそわれる。 |
| ⑪ 保存食を買って災害に備える。 | ⑫ 潔く犯行を認めたようだ。 |
| ⑬ 世界中で貧富の差が広がる。 | ⑭ 重い荷物をたくさん運ぶ。 |
| ⑮ 彼は現役のプロサッカー選手だ。 | |

問二——①～⑤の慣用句の意味を後のア～ウの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|--------|--------|--------|---------|---------|
| ① 手を焼く | ② 足を洗う | ③ 舌を出す | ④ 口がすべる | ⑤ 目をかける |
|--------|--------|--------|---------|---------|

ア 言うつもりでないことをうっかり言う
イ 好ましくない仕事を辞めて真面目になる
ウ かげで相手をばかにする
エ 取りあつかいに困る
オ かわいがって面倒をみる

問三——線部の文中での働きを後のア～ウの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- | |
|----------------|
| ① 美しい花がさいている。 |
| ② 妹とはたまに遊んでいる。 |
| ③ 日の出を見て感動した。 |
| ④ 幸せな気持ちになる。 |
| ⑤ しぶしぶ私も賛成した。 |

ア 主語 イ 述語 ウ 修飾語